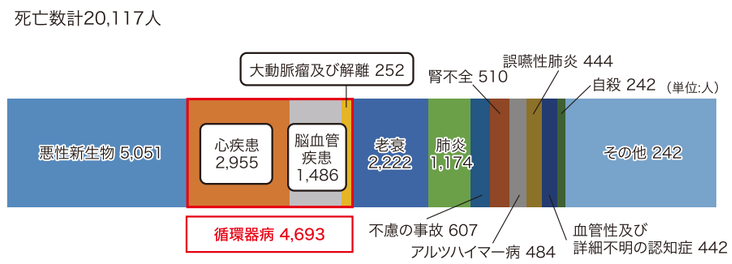
特集02

遠隔医療が拓く青森医療新時代

青森の遠隔医療政策

青森県健康医療福祉部　部長　守川　義信

図1　青森県の死因別死亡者数（令和４年）



出典:令和4年人口動態統計

青森県は全国の中でも医師が少ない県であり、医師の偏在を示す医師偏在指標は184・3（全国平均は255・6）となっており、全国の中で46位の医師少数県です。また、最寄りの医療機関までの距離が1km以上の夫婦ともに65歳以上の世帯割合は、青森県では35・9％と高く（全国21・5％）、医師が少ないだけではなく、医療機関までの距離も遠いことがわかります。さらに、青森県は冬の豪雪など自然環境が厳しいほか、公共交通機関の事情など様々な理由で通院が困難である県だといえます。

青森県は平均寿命が男性79・27歳、女性は86・33歳と男女とも全国最下位となっており、全国との格差が依然として大きいことが課題になっています。平均寿命が短い原因として悪性新生物（がん）による死者が多いことに加え、心疾患や脳血管疾患などのいわゆる循環器病による死者も悪性新生物とほぼ同数であり（図1）、平均寿命を短くしている大きな原因になっています。循環器病は病院に通院し、血圧の治療を行うことで死亡数を激減できることが知られていますが、青森県では慢性疾患を有する患者さんの通院しない割合が高く（糖尿病青森県30・2％、全国22・8％）、降圧薬の未服用者の割合も高いことが知られています。

このような課題を解決するためには、これまでとは全く違う新たな手立てが必要であり、その抜本的な対策の1つとしてオンライン診療があります。オンライン診療による患者さんの利点として、①通院に伴う負担軽減、②医療資源の効果的な活用、③対面に伴う負担の軽減、④感染リスクの軽減があります（図2）。

図2　患者さん目線でオンライン診療に期待されること

①の利点は、忙しくてなかなか病院に通院する時間が確保できない、家や職場から医療機関までの距離が遠い場合なども、オンライン診療を活用することで、自宅にいながらも診療を受けることができる点です。例えば、高血圧症のオンライン診療は世界中で研究結果が出ており、オンライン診療を効果的に活用することにより血圧の低下や心血管病イベントを抑制する効果が示されています（文献1～3）。

②の利点は、近くに専門的な医療を提供する医療機関がない場合など、オンライン診療を活用することで、専門機関から離れた場所においても専門医の診療を受けることができる点です。青森県では弘前大学がむつ総合病院と遠隔医療（別項）を開始しており、遠隔地で専門家の診療を受けることができます。

③の利点は、様々な理由で医療機関を受診しづらい方や、医療機関では過度に緊張して意思疎通がしにくい場合なども、医療機関と患者さんをつなぐことができる点です。自宅であればコミュニケーションがとりやすいこともあり、また、自宅の状況も画面を通して医療従事者と共有することで、医療的なアドバイスを受けることもできます。

④の利点は、新型コロナウイルス感染症時にも活用されたことでご存じの方も多いと思いますが、感染症流行下にはオンライン診療を活用することで、患者さんや家族の負担、さらには医療従事者の負担も減らすことができる点です。

青森県では、オンライン診療も含め積極的なICTの活用により、患者さんや医療従事者の負担を減らすだけではなく、医療機関間で画像を共有する仕組みを導入し、迅速に救急疾患を受け入れていただく体制の構築や（図3）、へき地及び一次医療と、二次及